

2 目標達成計画

作成日: 平成 26年 2月 21日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6 (5)	○身体的拘束をしないケアの実践について 身体的拘束ゼロについて、その理解を深める機会として勉強会などがあまりない。	利用者様の生活の質の向上のためにも、身体的拘束についてしっかりと理解をする。 また、定期的に勉強会の開催を行う。	「身体拘束ゼロの手引き」を確認する他、外部の研修に参加し、身体拘束について知識を身に付け事業所内で共有し確認を行っていく。 また、職員会議等で勉強会や、検討会の開催を行っていく。	H25.12末～ 実施中
2	33 (12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援について 今後、起こりうる重度化を想定し、家族への十分な説明、事業所に対応出来ることの確認、早い段階から家族と方針の共有など、対応をしっかりと行い支援していかなければならない。	利用者様の健康状態を観察し、日々の様子について説明していく。 また、家族の希望を伺いながら、事業所に対応が可能な事についての説明を行っていく。	毎日の健康管理(観察) 定期的な受診(家族様へ依頼)の他に、定期的に看護師(事業所対応)より健康管理をしてもらい、状態の変化を見逃さないようにする。	案内としては～H26.3 末 対応としては随時
3	35 (13)	○災害対策について 薄暮時、夜間想定などの避難訓練の実施や、避難時のリスクマネジメント。 また災害時の備蓄など検討の必要がある。	薄暮時や夜間想定などの避難訓練を実施する。 備蓄など検討、計算し災害時に備える。	避難訓練の計画時に夜間想定を計画する。 日頃から事業所周囲の観察を行い、職員間で共有し、危険な場所には注意、改善を心掛ける。 備蓄に関しても不足、心配があるものは検討し準備していく。	H26.5頃 H26.11頃い ずれかで、 実施予定
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。